

令和 4 年 4 月 15 日

教 育 長 様

(※受付番号)

研究コース
A グループ研究 A
校 園 コー ド (代 表 者 校 園 の 市 費 コー ド)
612300

代 表 者	校 園 名 :	大 阪 市 立 難 波 中 学 校
	校 園 長 名 :	鍋 谷 賀 都 緒
	電 話 :	06-6562-4477
	事 務 職 員 名 :	川 地 幸 子
申 請 者	校 園 名 :	難 波 中 学 校
	職 名 ・ 名 前 :	首 席 平 島 陽 介
	電 話 :	06-6562-4477

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	子どもも大人も安心できる「学びの場」の構築			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>昨年度取り組んだ「多様な性と学校課題」の研究において、子どもの学びはもちろんのこと、前提として大人が失敗を恐れず活発に発言できる安心感がある、「心理的安全性」を確保することで有意義な学びが生まれるという経験をした。そこで、今年度は多様な性にテーマをしぼるのではなく、人権教育の根底にある「安心感の醸成」という要素に着目し、子どもと大人の「安全・安心な環境」を構築する取り組みを行いながら、同時に学びを深めることを目指す。</p> <p>若手の教員が例年以上に多い本年度の本校において、人権教育推進委員会を「学習会」の場と位置づけ、本校の人権総合学習の 4 つのテーマ「平和学習」「国際理解学習」「特別支援学習」「多様な性」について、系統立てたカリキュラムを構築することが第二の目的である。</p> <p>「安心感の醸成」と、カリキュラムデザインを同時に進めることにより、今後教員が変わっても持続可能に、積極的に学び続けることができる環境を作ることを目指し、2 年目の研究とした。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権総合学習（平和学習、国際理解学習、特別支援教育学習、多様な性の学び）の系統立てたカリキュラムの構築を 1 つ目のゴールとする。 ・人権総合学習を選ぶ理由は、学年内の役割分担で決まった教員が「とりあえずやらなければならないのでやる」というような、目的意識があいまいなまま単発で授業を行うことへの疑問があったためである。すべての人権総合学習には、その根底に「誰一人取り残さない」、生徒 1 人 1 人の相互理解や相互の尊重への気づきになる学びがあり、教員がそこに対する明確な目的を持って授業に臨むことにより、生徒の安心感や自己肯定感を高めることにつながるはずだと考えるからである。 ・前ゴールを達成するためには、まず教職員の風土、すなわち「大人の心理的安全性」が先立つと考える。具体的には、若手や役職付きの教員等の関係に関わらず、安心して自らの考えを意見発信できる職場環境を作るという観点から、先進的に取り組みをしている学校の視察を行い知見を得、教職員の関係性や発言の変容が現れる状態を 2 つ目のゴールとする。 ・3 つ目に外部講師を定期的に招聘することにより、教員も生徒も「対話を通じて安心できる場所」を用意し、学習意欲（主体的に学びに向かう姿勢）の向上を目指す。 ・単一教科の学習への手立て（特定教科の補習や塾に通って補う等）とは異なるアプローチとして、生徒の安全・安心が土台に据えられれば、学力向上や深い仲間づくりにもポジティブな変化が表れるのではないか、という期待のもとで本研究を進める。 <p>【具体的な研究内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教職員組織の心理的安全性を高める研修企画（講師招聘）、視察を行う 2 人権総合学習の「学習会」を教員間で進める中で、1 で得た取り組みを実践的に行い、安心感に基づく活発な議論の場＝「学びの場」を作る 3 「学びの場」で教員が授業案を協働で練り、授業実践する 4 人権総合学習のカリキュラムデザインを構築し、系統立てた教材を作成する 5 安心感を高める「居場所」＝「放課後サロン」づくりの取り組みを、講師の力を借りて生徒に定例で実施し、また保護者へも積極的に取り組みを周知する 6 「放課後サロン」における講師の生徒への関わり方自体を、教員の学びの場とする 7 人権総合学習や、居場所＝「放課後サロン」の取り組みによって、生徒の学習へ向き合う力や友人らと関わる姿勢などについて変化が見られたか観察する 			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 昨年度実践した「多様な性と学校課題」の成果を確認した後、さらに研究を掘り下げて目的を設定、内容や見込まれる成果等について検討</p> <p>5月 目的に沿った講師や視察場所を探り、依頼</p> <p>6月 教員アンケート。先進的取り組みを進める小学校等視察、講師招聘を行い、教職員研修を実施。以後、定期的に居場所「放課後サロン」を開催、人権総合学習の研究</p> <p>7月 教員の安心感向上のプログラムを実施。人権総合学習の研究、授業実践と意見交換</p> <p>9月10月 同上</p> <p>11月12月 研究発表会教材研究、チームにて発表する役割分担や準備</p> <p>1月 研究発表会公開＝【浪速区人権実践交流会】と同時開催（参加者アンケート）</p> <p>2月 教職員事後アンケート・感想。分析、次年度への構想</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p>人権総合学習の各分野について、発達に応じた教材や講師選定をし、系統立てたカリキュラムデザインを構築する。また、教科を横断して「平和」「国際理解」「特別支援」「多様な性」の観点で貫き、研究で得た視点を持ち教科授業にも関連付ける。</p> <p>《検証方法》</p> <p>事後教員アンケート「人権総合学習の各分野について、昨年度と比べ、適切な時期に相応しい内容が実践されたか」「授業実践しやすかったか」等の項目に対する肯定的回答が80%以上</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p>視察や講師招聘のプログラムにより、教員相互の対話を通じた安心感のある「学びの場」の構築</p> <p>《検証方法》</p> <p>「自分の意見を言ってもいいと思える雰囲気がある」等の事後の教員アンケートを実施し、肯定的回答が80%以上</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p>講師招聘により、定期的に学びと居場所となる「放課後サロン」を開く取り組みを進める。参加は生徒・教員とも自由参加の形式にて行う</p> <p>《検証方法》</p> <p>生徒（参加者）の感想により、心の状態や変化がポジティブに現れる</p> <p>教員（参加者）の感想により、安心感を保つ空間づくりの学びにつながったか</p>

6	見込まれる 成果とその 検証方法	<p>【見込まれる成果4】 昨年度実施した「多様な性」の実践授業を講師とペアで行い、生徒の多様性に対する考えを広げる</p> <p>《検証方法》 事後アンケート調査、主体的にテーマに取り組んだ生徒が80%以上</p> <p>【見込まれる成果5】 「いのちを大切に思える（平和学習）」、「他の国や人種について理解が広がる（国際理解）」、「障がいへの理解（特別支援）」、「ジェンダーやバイアスの理解（多様な性）」などの人権課題について取り組みや教材研究を進める過程を通じて、生徒も教員も理解が深まり、他者尊重の人権感覚が高まる</p> <p>《検証方法》 運営に関する計画と関連する学校評価アンケートの人権課題部分や、生徒向け事後アンケートの肯定的回答が80%以上</p>				
7	研究成果の 共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（令和5年2月24日）までに必ず行ってください。</u> ○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="411 952 1449 1025"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 5 年 1 月 18 日</td> <td>場所</td> <td>難波中学校 体育館</td> </tr> </table> <p>◆代表校舎HPでの共有【必須】 他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>本年度自校開催予定の【浪速区人権実践交流会】における提案と兼ね合わせることで、昨年度のがんばる先生の研究「多様な性（SOGI）と学校課題」を含め、広く取り組みの周知を行う</p>	日程	令和 5 年 1 月 18 日	場所	難波中学校 体育館
日程	令和 5 年 1 月 18 日	場所	難波中学校 体育館			
8	代表校舎長の コメント	<p>昨年度も学校が受け止めた学校の課題の一つとして、「誰もが過ごしやすい学校づくり」を目指し、本校教職員が「子どもも大人も安心できる「学びの場」の構築」をテーマに取り組みます。</p>				